

7 ビデンスピローサ茶の飲用が奏効した下腿潰瘍の3例

二村 理恵子¹、千葉 貴人²、中原 剛士¹、高原 正和¹、師井 洋一¹、古江 増隆¹

¹九州大学大学院医学研究院皮膚科学分野、²麻生飯塚病院

日本皮膚科学会の血管炎・血行障害ガイドラインにも有用性が記載されているビデンスピローサ茶（BP 茶）に関して、有効症例を経験したので報告する。31歳男性。両足関節部から足背に痛みを伴う小潰瘍を前医で Livedo vasculopathy と診断され治療開始。ビデンスピローサ茶の飲用を開始したところ、2ヶ月目から潰瘍の痛みが軽減、潰瘍も徐々に縮小し、上皮化した。14歳女性。夏に増悪する下腿の潰瘍で初診。Livedo vasculopathy と診断し、様々な抗凝固療法行うも夏に潰瘍が再燃していた。BP 茶飲用を開始したところ、潰瘍の出現は激減し、疼痛も軽減した。41歳女性。難治性の下腿潰瘍を主訴に初診。入院検査によって、common variable immunodeficiency syndrome と診断され、免疫グロブリンの補充療法が開始された。潰瘍は上記疾患に伴う壊疽性膿皮症と診断されたが、原病に対する治療やステロイド治療で潰瘍の縮小はわずかであった。BP 茶の飲用を開始したところ、急速に潰瘍の縮小を認め、上皮化に至った。